



イーレックス株式会社[9517]

再生可能エネルギーをコアに
電力新時代の先駆者になる

2023年3月期第1四半期
決算補足説明資料

2022年8月10日

将来見通しに関する注意事項

本資料は当社グループの企業情報などの提供の為に作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積り、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料に関するお問い合わせ先

イーレックス株式会社 IR広報部

Mail: ir.info@erex.co.jp

決算概要

～2023.3期 第1四半期～

2023.3期 第1四半期実績(2022年4月~6月)

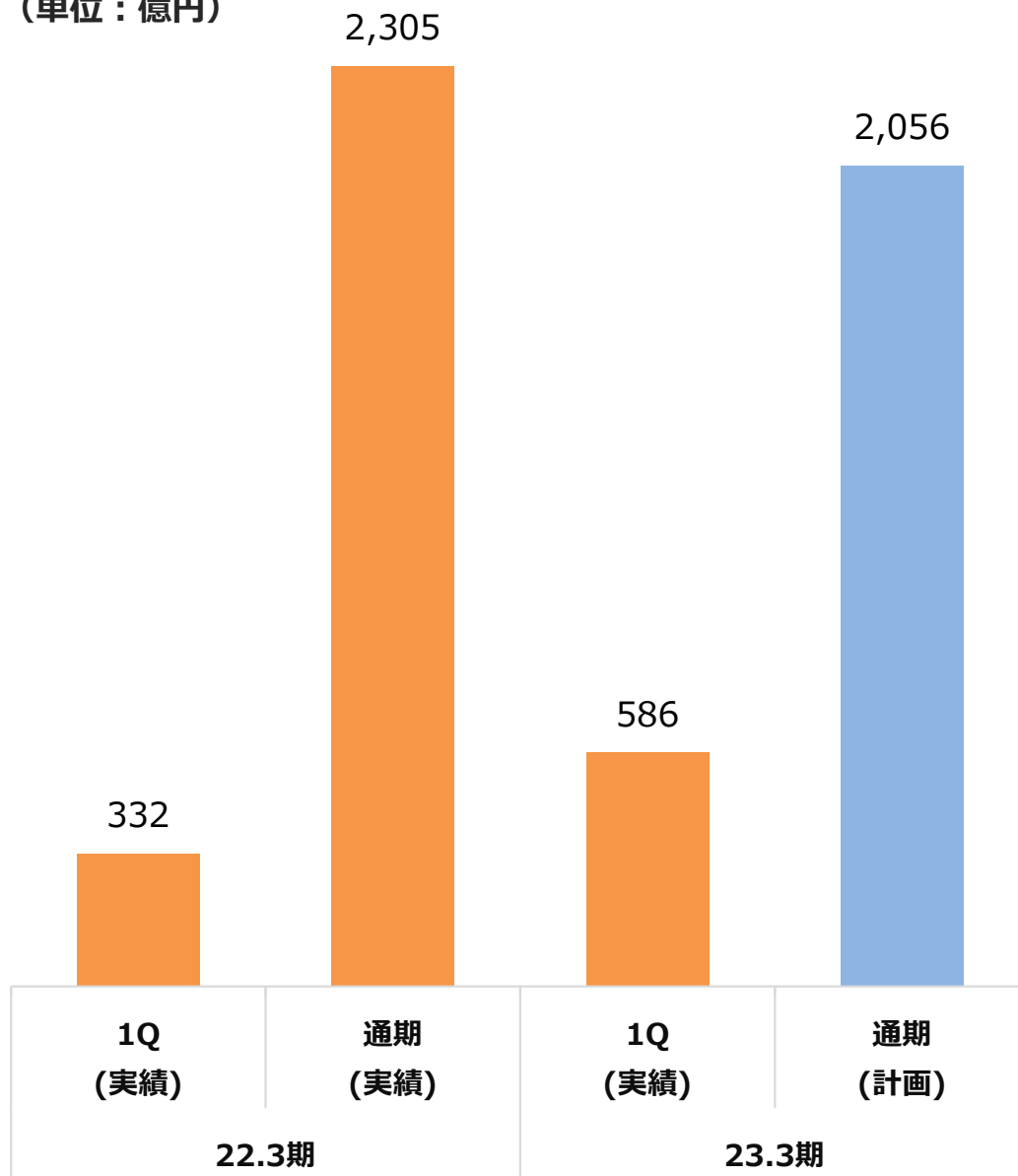
(単位：億円)	'22.3期 第1四半期 (実績)	'22.3期 通期 (実績)	'23.3期 第1四半期 (実績)	'23.3期 通期 (計画)	対前年同期 増減率	通期計画 進捗率
売上高	332	2,305	586	2,056	76.6%	28.5%
EBITDA*	25	196	37	—	—	—
営業利益	11	124	31	149	168.3%	21.2%
経常利益	15	137	21	147	39.4%	14.6%
純利益*	8	96	16	80	101.1%	20.9%

*EBITDA… 税金等調整前当期純利益+支払利息+減価償却費+工事負担金償却等

*親会社株主に帰属する当期純利益

- ① **売上高(前年同期比+76.6%)、経常利益(前年同期比+39.4%)ともに増収増益で推移**
 - ・ 卸売および市場取引を積極的に活用
(電力調達コストが高騰する中、トレーディングの工夫により利益を確保)
 - ・ 利益重視の販売戦略
- ② **佐伯発電所、豊前発電所、中城発電所、大船渡発電所は計画通り稼働**
 - ・ 各発電所は定期修繕を実施
 - ・ 土佐発電所は設備修繕により停止日数延長
- ③ **高圧小売契約の値上げ提案を継続中**
 - ・ 販売価格の見直しによる適正価格への協議を実施
- ④ **石炭火カトランジションプロジェクトが進展**
 - ・ 8月1日に糸魚川発電所の株式譲渡完了
- ⑤ **ベトナム国でバイオマス事業を展開**
 - ・ 第8次国家電カマスタープラン(PDP8)についてベトナム各省と協議を行い、中央政府へ申請
 - ・ 4カ所でニューソルガムの土地を確保しつつあり、そのうち3カ所で試験作付けを実施

(単位：億円)



売上高 **586** 億円

前年同期比 +76.6%

高圧小売

- 売上高増(同+3.7%)
- 値上げにより販売電力量は減ったが、販売単価は上昇

低圧小売

- 売上高増(同+49.5%)
- 需要家件数増 約31万件(同+6.4万件)

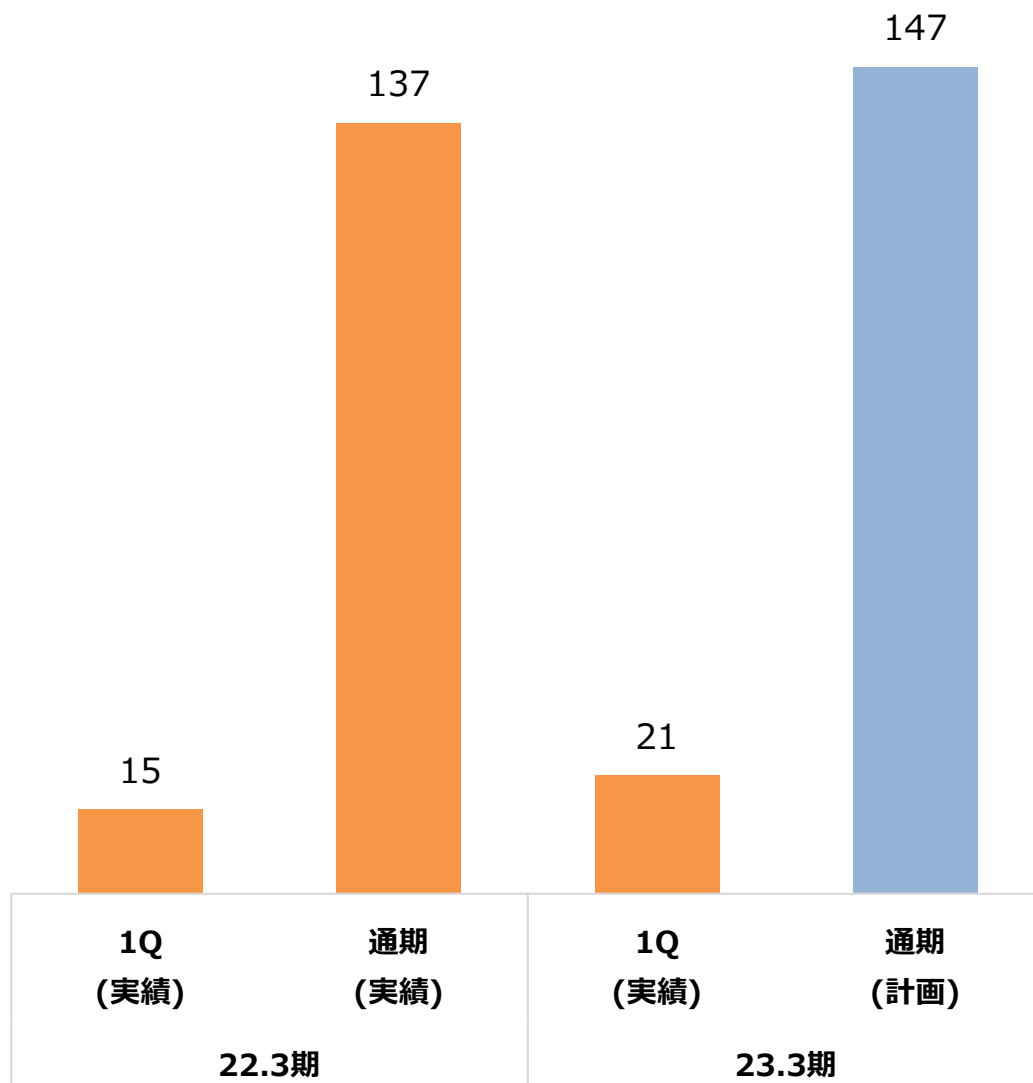
卸売

- 卸売および市場取引を積極的に活用
- 数量は微減したが、単価は上昇

豊前発電所・中城発電所

- 他社に全量売電。計画通り稼働

(単位：億円)



経常利益 **21** 億円

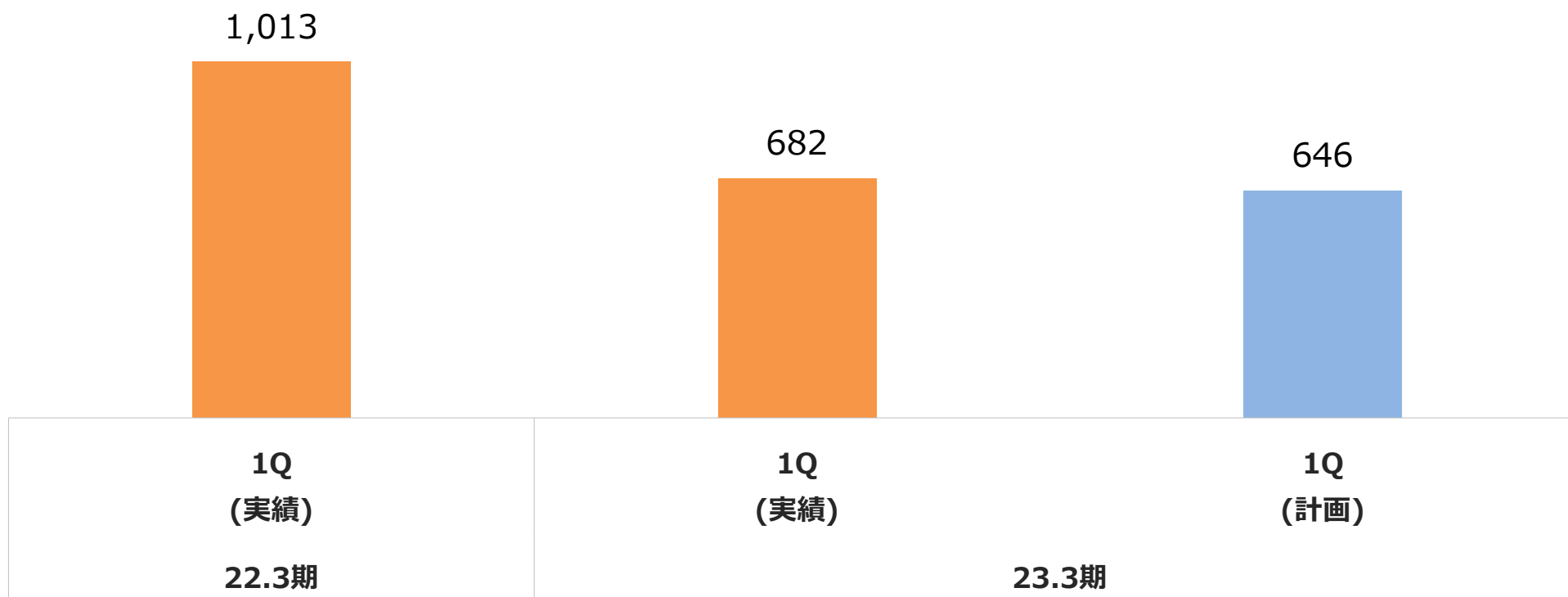
前年同期比 +39.4%

- 計画と比較して順調に推移
- 市場価格高騰下において卸売を積極的に活用し、増益に寄与

- 値上げ対応により販売電力量前年同期比 Δ 32.7%

販売電力量 推移

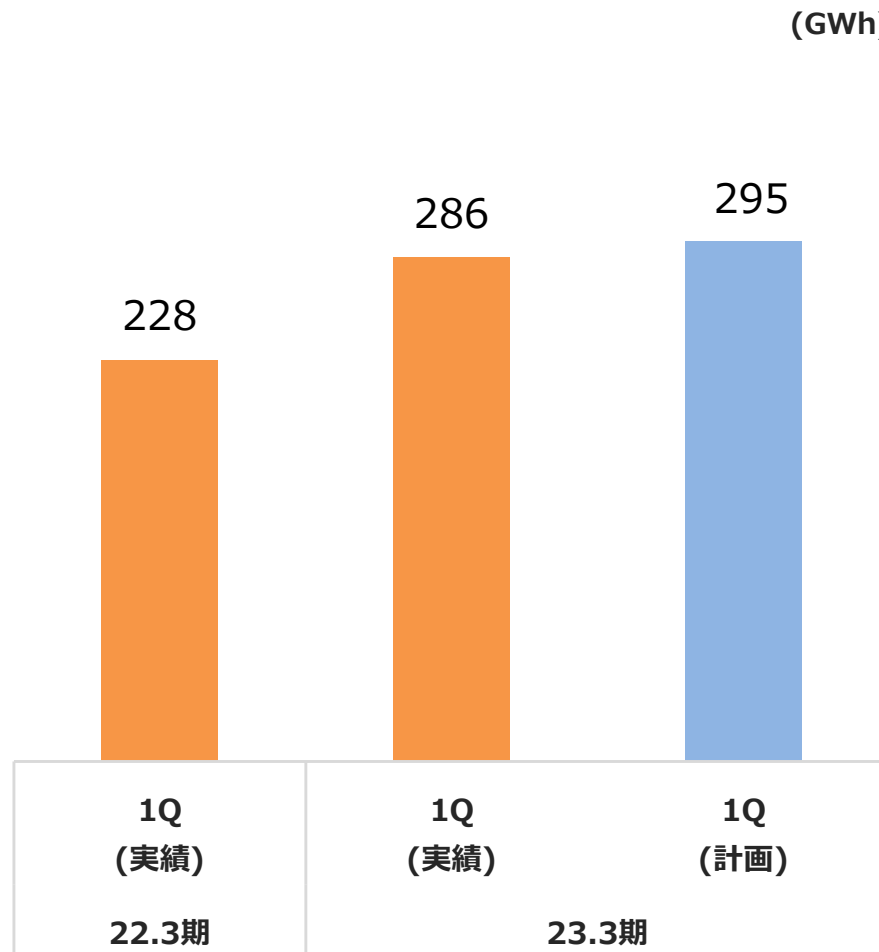
(GWh)



- 販売電力量前年同期比+25.2%、販売電力量及び供給件数は概ね計画通りに推移

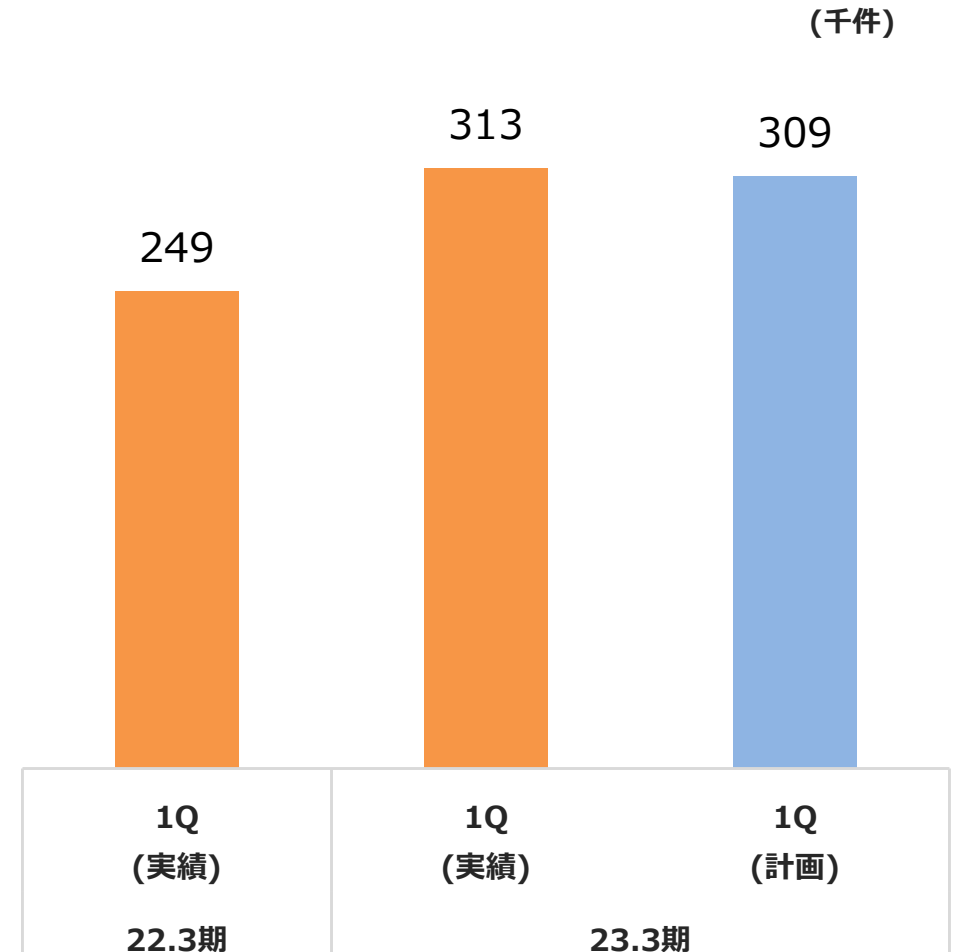
販売電力量 推移

(GWh)



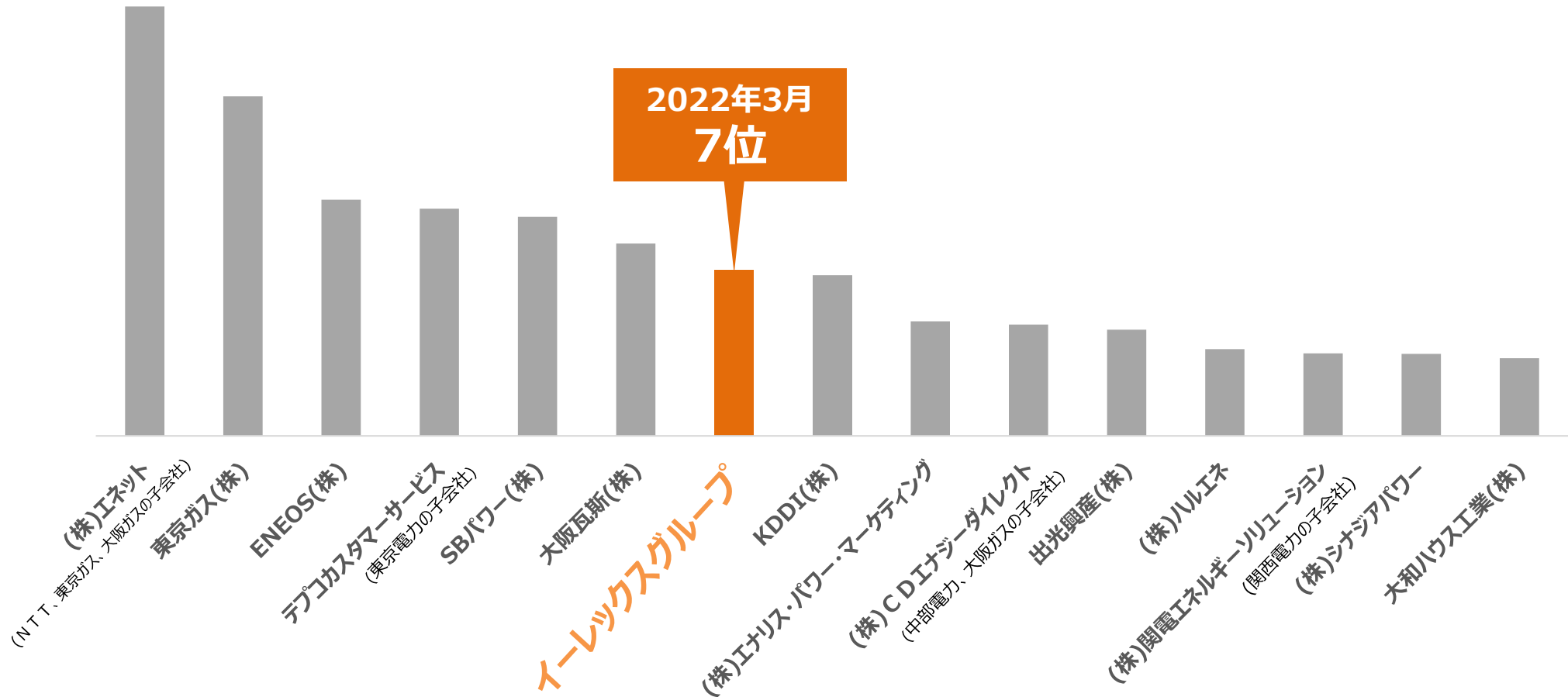
供給件数 推移

(千件)



2022年3月時点の販売電力量ランキング7位

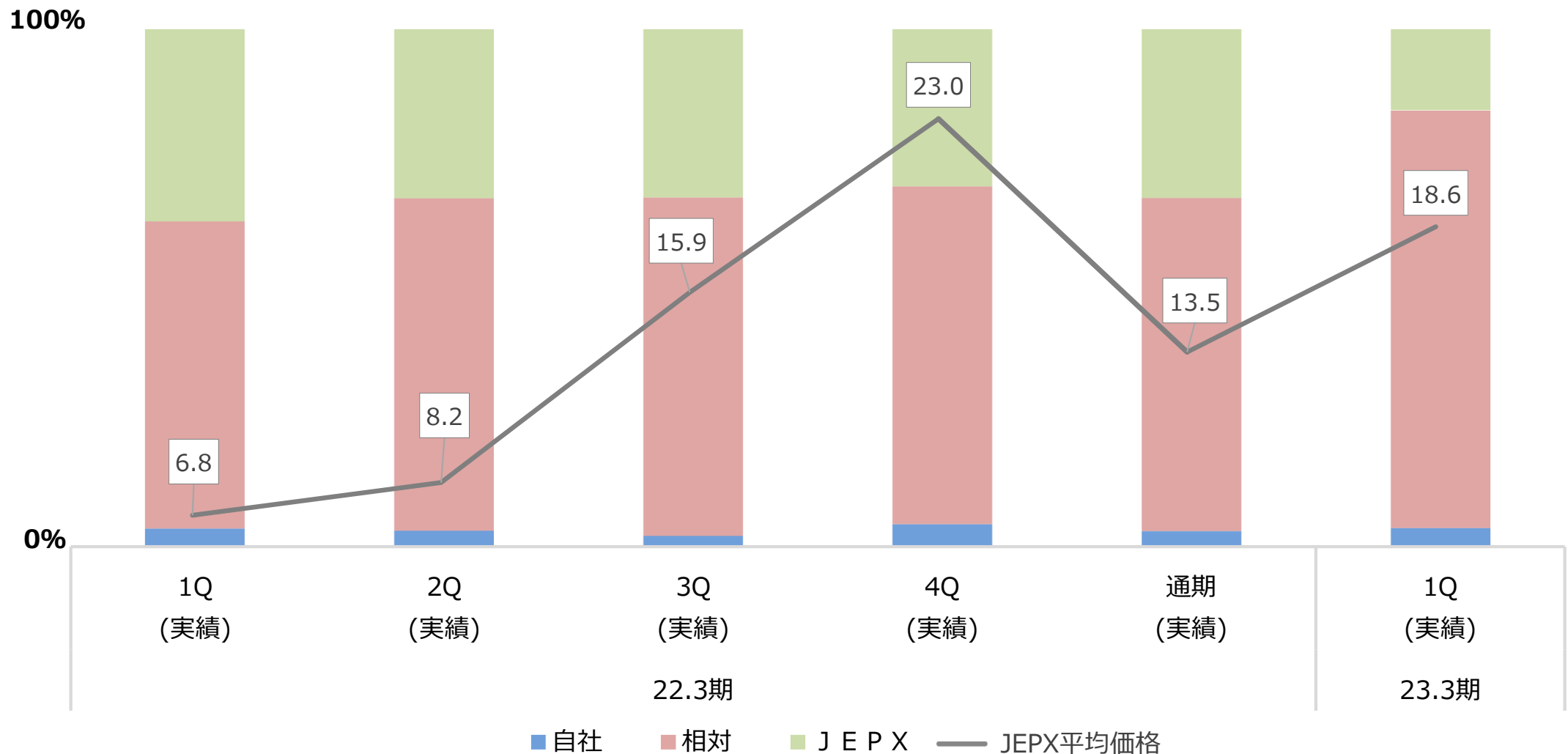
販売電力量ランキング



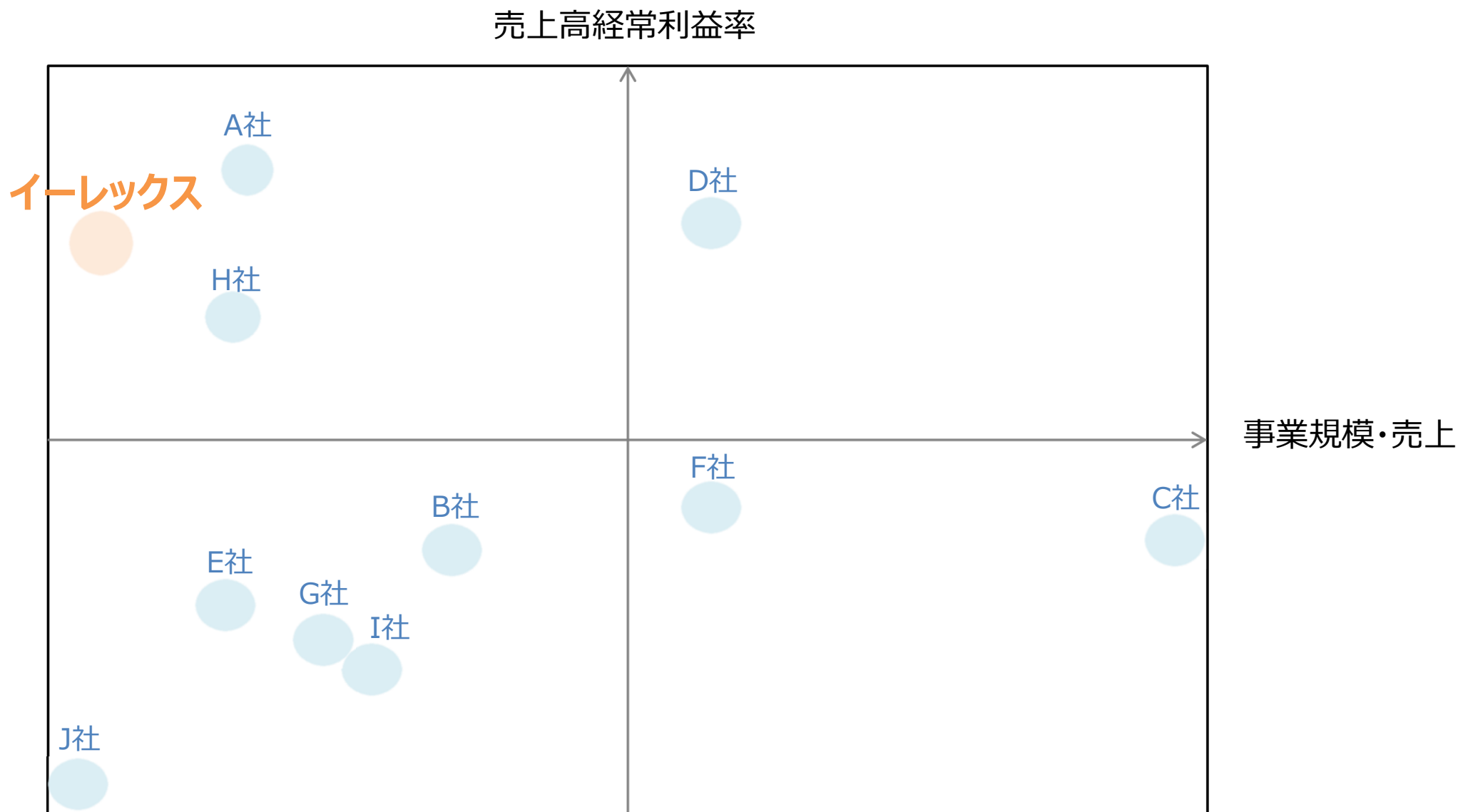
2023.3期 第1四半期電源調達構成

- 市場価格上昇局面では相対契約を増やし、下落局面では市場調達を増やすことを基本に調達
- 2022.3期から継続してJEPX価格は高く推移。前年同期比+11.8円/kWh

調達割合・JEPX価格推移 (システムプライス)



■ 電力調達コストが高騰する中、トレーディングの工夫により利益を確保

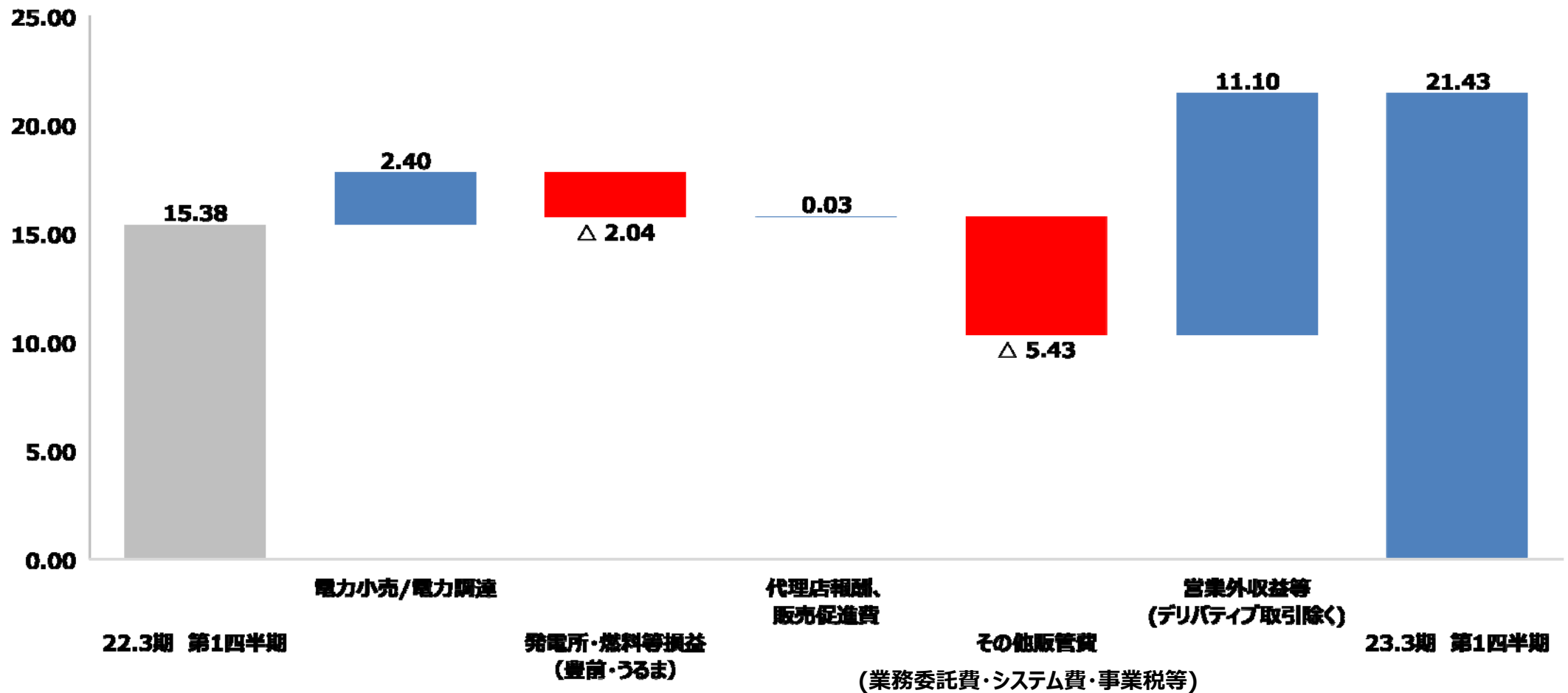


2023.3期 第1四半期の前年対比による変動要因

■ 高圧の単価上昇、為替差益等により収益増

経常利益

(単位：億円)



連結貸借対照表の概要

(単位：億円)	2022.3期 期末	2023.3期 第1四半期		
		実績	増減	主な増減要因
流動資産	694	701	6	<ul style="list-style-type: none"> 社債の発行による現預金及び預金の増加 販売量の減少による売掛金の減少
固定資産	877	921	44	<ul style="list-style-type: none"> デリバティブ債権の増加
資産合計	1,571	1622	51	
流動負債	429	392	△37	<ul style="list-style-type: none"> 未払消費税等、未払法人税等の減少
固定負債	473	523	49	<ul style="list-style-type: none"> 社債の発行による増加
負債合計	903	915	12	
株主資本	498	499	0	
その他の包括利益累計額	58	96	37	<ul style="list-style-type: none"> 繰延ヘッジ損益の増加
非支配株主持分	111	112	2	
純資産合計	668	707	39	
現金及び預金	271	371	99	<ul style="list-style-type: none"> 社債の発行による増加
有利子負債	536	578	42	<ul style="list-style-type: none"> 社債の発行による増加
自己資本比率	35.5%	36.7%	1.2%	

第2四半期以降の施策

燃料

- ニューソルガム ベトナム4カ所で土地を確保しつつあり、そのうち3カ所で試験作付け実施
- コスト高騰対策としてPKSスポット価格交渉を実施
- 第三者認証(GGL認証)付のPKS調達を実施

発電

国内

- **石炭火カトランジション**
8月1日に糸魚川発電所の株式譲渡完了。他の先行案件も引き続き協議中
- 水素事業
連続性の確認、コストの低減を目指し安定運転継続中。更なる効率化に向けて課題を抽出。年度内に大型化実証着手予定
- 世界最大級のNon-FIT大型バイオマス発電所建設に向けアセス推進中

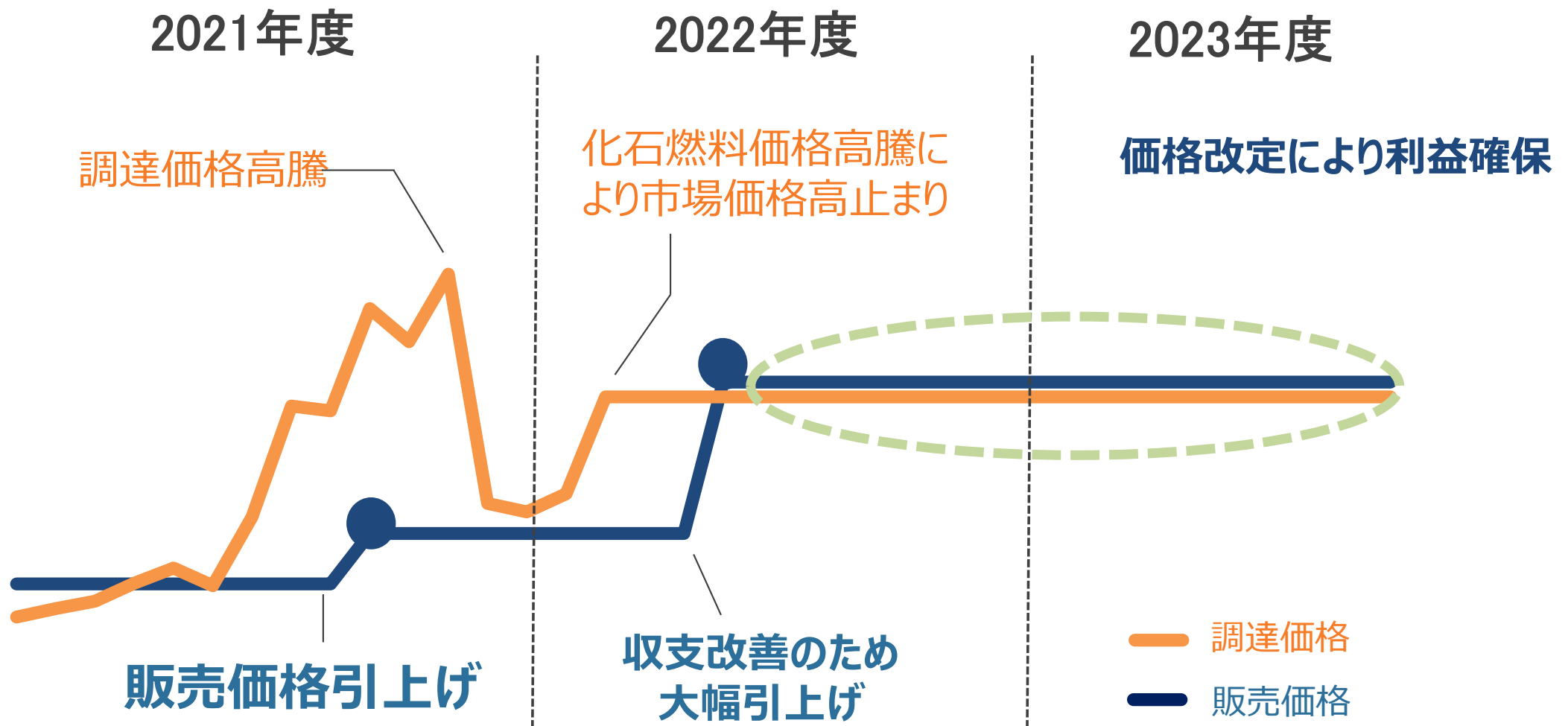
国外

- ハウジャンバイオマス発電所2024年度中稼働予定。**本年9月の着工**に向け計画通り進捗(ベトナム)
- 各省と協議し第8次国家電カマスタープラン(PDP8)について申請手続きを行っており、今秋にもベトナム中央政府が承認する見通し(ベトナム)
- 水力発電プロジェクト本体工事着工予定(カンボジア)

電力小売

- **収益性を重視し、販売価格見直しを継続実施**
- 低圧の高使用量需要家への営業

■ 従来以上に販売価格設定が重要



※イメージ図

バイオマス燃料（PKS）の持続可能性の確保に関する自主的取組

- 第三者認証（GGL認証）の要件を満たしたPKSを合併会社(DSE)から初出荷
- 今後、長期的、経済的かつ持続可能性（合法性）を備えたPKSの安定供給体制を一層強化



- 8月1日に糸魚川発電所の株式譲渡完了
- Non-FIT発電所第1号。今後は自社小売事業や卸販売で活用



会社名	糸魚川発電株式会社
共同事業開始年月	2003年4月
資本金と構成	20億円 (出資比率：イーレックス64%、太平洋セメント36%) (8月1日付)
運転開始年月	2001年7月
本店及び発電所所在地	新潟県糸魚川市
発電設備	石炭焚汽力発電設備 (ボイラ形式：循環流動層型)
定格出力	149,000 kW

- ベトナムにおける第1号のバイオマス発電所
 - 2024年度中稼働予定。本年9月の着工に向け計画通り進捗
- ※日本政府の令和4年度 二国間クレジット制度 設備補助事業の一次公募で採択。交付手続を進める
(対象設備の整備費用の50%が上限)

事業会社名	Hau Giang Bioenergy Joint Stock Company
発電所名	ハウジャンバイオマス発電所 (Hau Giang Biomass Power Plant)
建設予定地	ベトナム社会主義共和国ハウジャン省
FIT単価 (許認可ベース) ※ベトナムの FIT スキームに則り売電	8.47US cent/kWh
発電出力	20MW (年間発電量は一般家庭約 93,000 世帯分)
主要燃料	もみ殻(年間約13万 t)



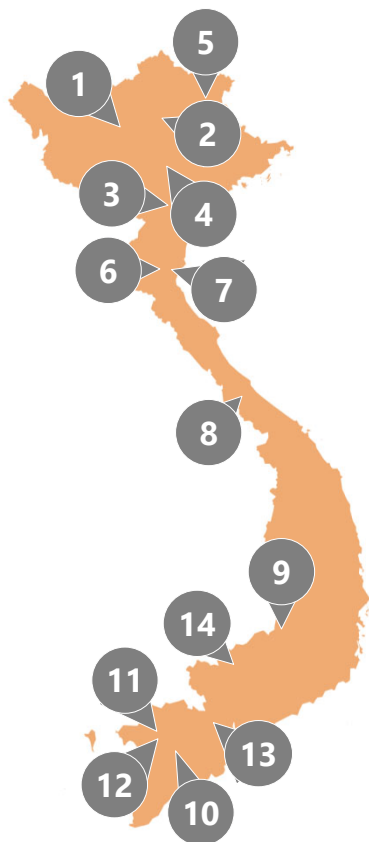
※二国間クレジット制度 (Joint Crediting Mechanism: JCM) は、途上国と協力して温室効果ガスの削減に取り組み、削減の成果を両国で分け合う制度

【新設バイオマス発電】

- ベトナム各省と協議を行い14案件（計1,119MW）をベトナムの第8次国家電カマスタープラン（PDP8）に対し申請手続きを行っており、今秋にもベトナム中央政府が承認する見通し
- 来年度3カ所着工見通し

【石炭火力トランジション】

- 複数の石炭火力発電所を視察。現地企業とも意見交換を行い、既存石炭火力を活用した バイオマス事業について引き続き検討を行う



新設バイオマス発電所候補地

		プロジェクト名		発電量
北部	1	Yen Bai	イエンバイ	75MW
	2	Tuyen Quang	トゥエンクワン	100MW
	3	Hoa Binh	ホアビン	100MW
	4	Phu Tho	フートー	50MW
	5	Bac Kan	バッカン	50MW
中部	6	Thanh Hoa 2	タインホア2	60MW
	7	Thanh Hoa 1	タインホア1	50MW
	8	Quang Binh	クアンビン	109MW
	9	Dak Lak	ダックラック	125MW
南部	10	Can Tho	カントー	100MW
	11	An Giang 1	アンジャン1	75MW
	12	An Giang 2	アンジャン2	100MW
	13	Long An	ロンアン	75MW
	14	Binh Phuoc	ビンフック	50MW
		12省 14案件		1,119MW

- 4カ所でニューソルガムの土地を確保しつつあり、そのうち3カ所で試験作付け実施

① タイニン省

- 570haの土地を確保。
100haに作付け実施予定。今期中の刈取りを目指す



② ロンアン省

- 42haの土地を確保。
一部作付け開始。今秋を目途に42haに広げる



③ フーエン省

- 1.3haの土地を確保。
種植えを実施。作付け地拡張に向け協議中



④ ビントウアン省

- 2000haの土地を確保中。
土地整備を行い、来年度より500haに作付け実施予定



ereX

ENERGY RESOURCE EXCHANGE